

市内事業者実態調査

調査対象	市内事業者 ※「令和3年経済センサス-活動調査（総務省）」の事業所データをもとに層化無作為抽出
総発送数	2,000件
調査方法	✓調査票の郵送配布, 自記入方式 ✓郵送回収またはWEB回収の併用
調査期間	令和5年12月6日～令和6年1月31日
有効回収数	603件
有効回収率	30.2%

景況・経営動向

- ✓新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2019年12月以前）の売上高と比較した場合（感染拡大前の売上高を100とした場合）、**感染拡大前の売上高水準に達していない（100未満）事業者が半数を超えています（52.2%）**。
- ✓D I値をみると、景況感、売上高、経常利益は好転している一方、資金繰りは横ばい、仕入単価は悪化し、約6割が仕入単価上昇との見通しを持っています。**資源価格の高騰・高止まりによる収益力の低下が、経営安定化への大きな懸念材料**となっています。
- ✓現在、直面している経営上の問題点は、「原油・物価高騰に伴う**材料費・光熱費・人件費の高騰**」「人材不足、**従業員の確保が困難**」「**需要の停滞**、市場の縮小、客数の減少」等が上位に挙げられています。

人材確保

- ✓「正規社員」「パート・アルバイト」に関わらず、**人手不足感は高まっており**、業種別でみると、「建設業」では「正規社員」、「小売業」では「正規社員」「パート・アルバイト」、「医療、福祉」では「パート・アルバイト」の人手不足感が高い状況です。

デジタル化（IT化）

- ✓デジタル化（IT化）に取り組んで「ない」は1割未満にとどまり、**初期段階のデジタル化（IT化）は着実に浸透しているもの**の、デジタル化による業務効率化や収益力向上、新たなビジネスモデル構築等の発展段階に着手する事業者は少数派です。
- ✓決済方法は、キャッシュレス決済併用の動きは始めているものの、**現金志向が根強く残っています**。

調布市の施策・事業

- ✓調布市が行っている各産業振興施策について、「重要度（期待度）が高く満足度が低い施策」（市内事業者からみてより優先度が高いと判断されている施策）として「**デジタル化（IT化）への支援**」「**人材確保・育成への支援**」「**消費喚起策の実施**」「**国・東京都の支援策の情報提供**」「**バリアフリー化への支援**」が挙げられています。

市民実態調査

調査対象	市内に在住する満16歳以上の市民 ※住民基本台帳から層化無作為抽出
総発送数	3,000件
調査方法	✓調査票の郵送配布, 自記入方式 ✓郵送回収またはWEB回収の併用
調査期間	令和5年12月6日～令和6年1月12日
有効回収数	1,275件
有効回収率	42.5%

普段の買い物行動

- ✓普段、よく利用する店舗・購入手段をみると、「青果・精肉・鮮魚」「酒類・飲料」「総菜・弁当」「日用雑貨」では「自宅周辺のスーパー」が最も高く、「外食・飲食」では「市内の駅周辺の大型商業施設」が最も高く、次いで「自宅周辺の一般商店」です。
- ✓自宅周辺の一般商店を利用しない理由は、「自宅近くにない」「**なじみの店舗がない**」「**1カ所で買い物が済まない**」「**欲しい商品・サービスが十分でない**」が上位に挙げられています。
- ✓普段よく利用する決済方法は、「クレジットカード決済」が7割半ば、「電子マネーでの決済」「スマートフォン決済（QRコード決済）」が4割半ばの一方、「いずれも利用していない（現金のみ）」は1割未満であり、**キャッシュレス決済が浸透**しています。

商店街の利用状況等

- ✓普段の買い物で商店街を「利用している」は29.8%、市内商店街で開催されているイベントに「行ったことがある」が35.7%であり、イベントでの集客を商店街の新規顧客獲得につなげていく余地はあると考えられます。
- ✓調布市内の商店街がどうなれば、より利用するかについては、「**品揃えを豊富にする**」「**品質・鮮度が良い商品を揃える**」が上位に挙げられています。

地域資源

- ✓友人や知人に対して、買い物・遊び、または観光を目的に訪れるまちとして、調布市をお薦めしたいかどうかについて、「**お薦めしたいと思う**」「**どちらともいえない**」が各4割、「お薦めしたいと思わない」が約1割となっています。

調布市の施策

- ✓期待する施策として、「まちを歩いて楽しめる環境づくりを推進する」「**子どもや高齢者にやさしい産業・商業の創出・育成を推進する**」「**商業・商店街活性化支援を推進する**」「日々の暮らしを支える**消費喚起策を充実させる**」が上位に挙げられています。

来街者実態調査

調査対象	✓16歳以上 ✓東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、山梨県に在住している方 ✓令和元年1月以降、「遊びや観光」を目的として、1回以上、調布市に行ったことがある方
調査方法	インターネットモニター調査
調査期間	令和5年12月12日～令和5年12月26日
標本数	600件

観光全般

- ✓遊びや観光をはじめとする外出に求めるものとしては、「おいしいものを**食べる**」「**リフレッシュ・ストレス解消をする**」「家族や友人・恋人と**一緒にいる時間を楽しむ**」「**こころを豊かにする**」「**新しい経験をする**」が上位に挙げられています。
- ✓遊びや観光に出掛ける頻度は、コロナ禍で一旦減少したが、**5類移行後（令和5年5月以降）には回復傾向**にあり、新型コロナウイルス感染症流行前（令和元年12月以前）の水準に戻りつつあります。

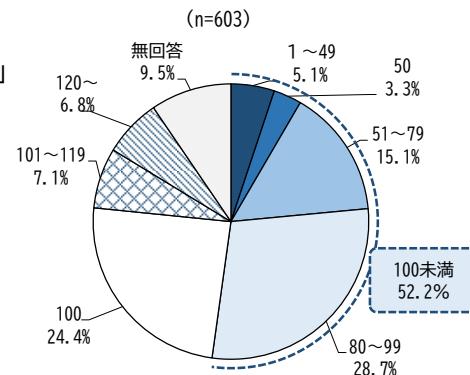
調布市との関り方

- ✓調布市への来訪に際しての宿泊経験は、「宿泊したことはない（日帰り）」が**82.7%**、「調布市内に**宿泊したことがある**」が**16.0%**。
- ✓調布市内の施設や観光スポットで知っている・行ったことがあるものについては、どちらも「**深大寺**」「**味の素スタジアム（東京スタジアム）**」「**調布パルコ**」「**都立神代植物公園**」「**鬼太郎茶屋**」「**武蔵野の森総合スポーツプラザ**」が上位に挙げられている。
- ✓調布市内で開催されるイベントで知っている・行ったことがあるものについては、どちらも「**調布花火**」「**深大寺だるま市**」「**映画のまち調布 シネマフェスティバル**」が上位に挙げられている。一方、「**知っているものはない**」は**27.0%**、「**行ったことがあるものはない**」は**51.2%**を占めている。
- ✓調布市内での行動について**周遊ルートの有無を聞いたところ**、「**特にない**」が**78.8%**、「**周遊ルートあり**」は**21.2%**となっている。
- ✓調布市に来訪した際の大まかな平均使用金額（交通費、飲食費、買い物・お土産代、施設やレジャーの入場料・利用料、（宿泊経験がある場合のみ宿泊費））は、「日帰り」では7,554円、「市内宿泊者」で41,857円となっている。
- ✓今後、より多くの人に調布市を訪れてもらうために必要なものは、「**インターネット（ホームページなど）を活用した情報発信**」「**グルメや飲食店の充実**」「**SNS（X(旧Twitter)・YouTubeなど）を活用した情報発信**」が上位に挙げられている。

景況・経営動向

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2019年12月以前）との売上高の比較

- ✓新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2019年12月以前）の売上高と比較した場合（感染拡大前の売上高を100とした場合）, 「100未満」が52.2%, 「100」が24.4%, 「101以上」が13.9%となっています。
- ✓業種別でみると, 「飲食サービス業」では「100未満」が67.9%, 「小売業」では62.0%となっており, エンドユーザーを主要顧客に持つ業種で特に回復が遅れていることがうかがえます。



DI値（景況判断指数）= 定的評価の割合 - 否定的評価の割合

2021年度との比較 (実績)	2022年度を基準	2023年度との比較 (見通し)	実績→見通し
▲ 6.2	景況感	▲ 1.2	5.0 ポイント好転
▲ 5.1	売上高	▲ 2.5	2.6 ポイント好転
▲ 15.0	経常利益	▲ 9.9	5.1 ポイント好転
▲ 18.0	資金繰り	▲ 18.2	0.2 ポイント悪化
▲ 45.8	仕入単価	▲ 54.4	8.6 ポイント悪化

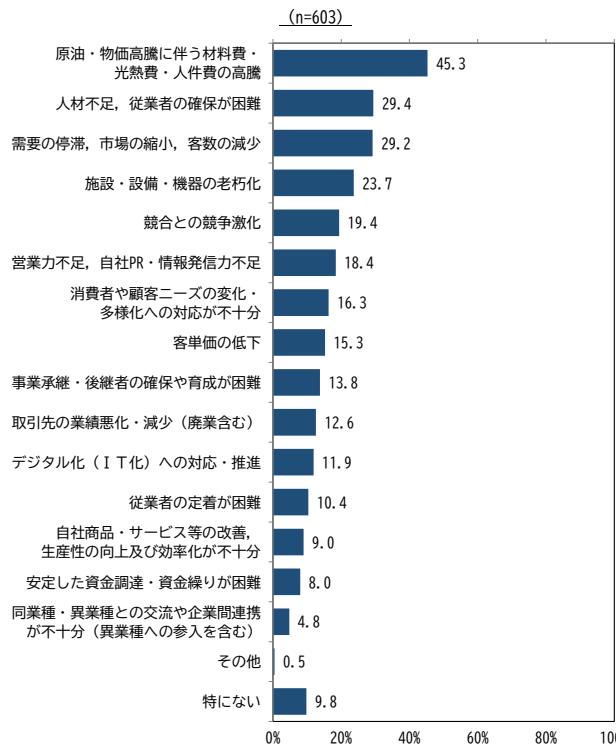
DI値（景況判断指数）

- ✓DI値をみると, 景況感, 売上高, 経常利益は好転している。また, 資金繰りは横ばい, 仕入単価は悪化しています。
- ✓2023年度の見通しとして, 約6割が仕入単価は上昇すると考えています。
- ✓資源価格の高騰・高止まりによる収益力低下が, 経営安定化への大きな懸念材料となっています。

※DI値は, 景況感, 売上高等の各項目についての判断の状況を表すもの。ゼロを基準として, プラスの値で上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し, マイナスの値で下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。なお, 景況感や売上高等の増加は肯定的評価, 仕入単価等の増加は否定的評価となります。

現在, 直面している経営上の問題点

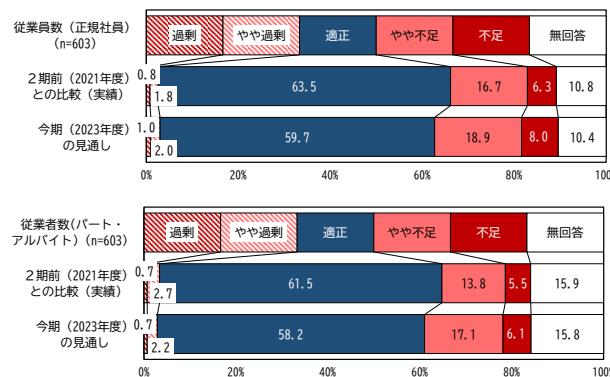
- ✓現在, 直面している経営上の問題点は, 「原油・物価高騰に伴う材料費・光熱費・人件費の高騰」(45.3%)が最も高く, 次いで「人材不足, 従業員の確保が困難」(29.4%), 「需要の停滞, 市場の縮小, 客数の減少」(29.0%), 「施設・設備・機器の老朽化」(23.7%), 「競合との競争激化」(19.4%)となっています。



人材確保

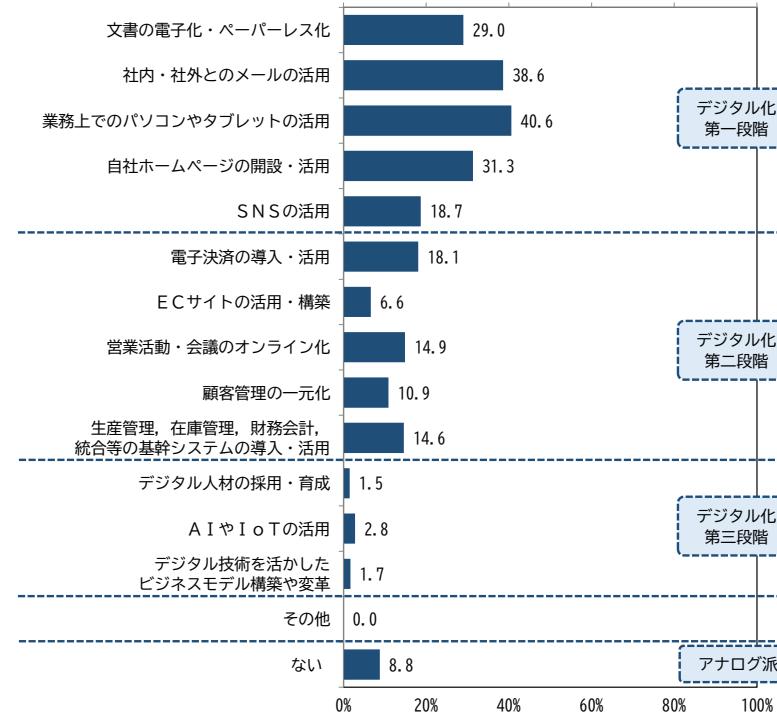
従業員数の過不足

- ✓「正規社員」「パート・アルバイト」に関わらず, 人手不足感は高まっています。
- ✓建設業では「正規社員」, 小売業では「正規社員」「パート・アルバイト」, 医療, 福祉では「パート・アルバイト」の人手不足感が高まっています。

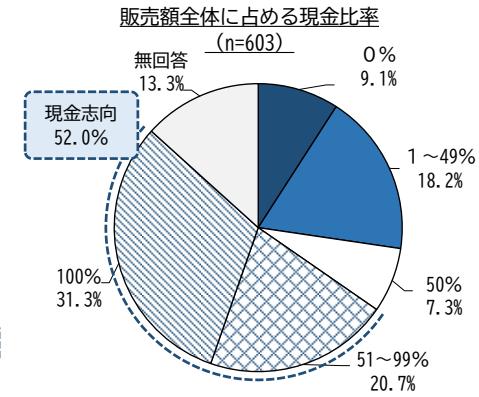


デジタル化 (I T化)

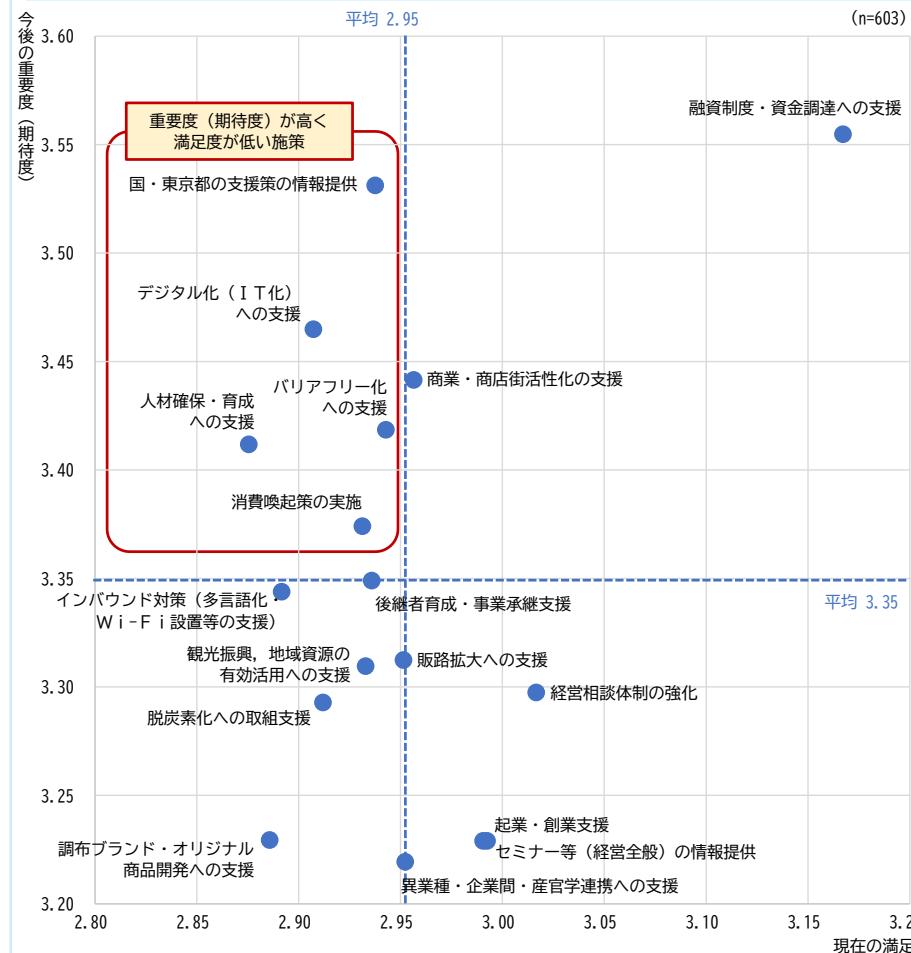
すでに取り組んでいるデジタル化(I T化)対応 (n=603)



- ✓デジタル化(I T化)に取り組んで「ない」は1割未満にとどまります。
- ✓デジタル化による業務効率化や収益力向上, 新たなビジネスモデル構築等の発展段階に着手する事業者は, 少数派です。
- ✓決済方法は, キャッシュレス決済との併用の動きは始めているものの, 現金志向が根強く残っています。



調布市の施策・事業



施策の満足度と重要度

- ✓調布市が行っている各産業振興施策について, 「重要度(期待度)が高く満足度が低い施策」(市内事業者からみてより優先度が高いと判断されている施策)として, 「デジタル化(I T化)への支援」「人材確保・育成への支援」「消費喚起策の実施」「国・東京都の支援策の情報提供」「バリアフリー化への支援」が挙げられています。

※「現在の満足度」の選択肢の「満足していない」=1 「あまり満足していない」=2 「どちらでもない」=3 「やや満足している」=4 「満足している」=5と仮定して, 各選択肢への回答数に掛け, 合計値を平均し指数を算出。「今後の重要度(期待度)」も同様。

普段の買い物行動

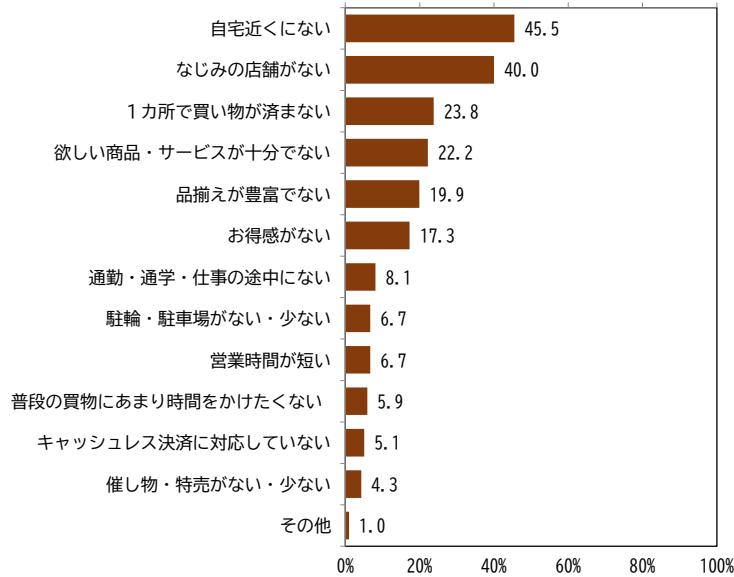
普段, よく利用する店舗・購入手段

- ✓ 普段, よく利用する店舗・購入手段をみると, 「青果・精肉・鮮魚」「酒類・飲料」「総菜・弁当」「日用雑貨」では「自宅周辺のスーパー」, 「外食・飲食」では「市内の駅周辺の大型商業施設」, 「高級衣料」では「市外の実店舗」が最も高くなっています。
- ✓ 「自宅周辺の一般商店」に着目すると, 生鮮三品は約1割, 総菜・弁当, 日用雑貨は1割半ばの利用率にとどまるが, 「外食・飲食」では約3割を確保しています。

(n=1,275) (単位: %)

	自宅周辺の一般商店	自宅周辺以外の市内一般商店	自宅周辺のスーパー	自宅周辺以外の市内スーパー	自宅周辺のコンビニエンスストア	市内の駅周辺の大型商業施設	市内の幹線道路沿道の大型商業施設	市外の実店舗	インターネットショップ	宅配・配達サービス(生協, ネットスーパーなど)	自分では購入しない
青果・精肉・鮮魚	10.4	4.0	74.7	32.5	4.2	20.8	7.0	7.1	2.2	16.9	7.2
酒類・飲料	6.6	3.7	63.0	24.2	27.0	10.2	6.2	7.3	14.2	13.6	5.2
外食・飲食	30.4	20.6	18.6	8.6	12.1	39.8	12.6	29.5	1.6	3.8	3.8
総菜・弁当	14.7	5.6	59.0	21.6	31.7	20.5	5.7	8.2	1.0	4.9	10.0
日用雑貨	15.1	7.8	50.4	21.3	7.0	31.8	12.5	12.7	28.0	9.4	4.0
高級衣料	0.9	1.6	1.1	0.5	0.1	18.2	5.0	40.1	24.3	0.6	24.9

(n=1,275)

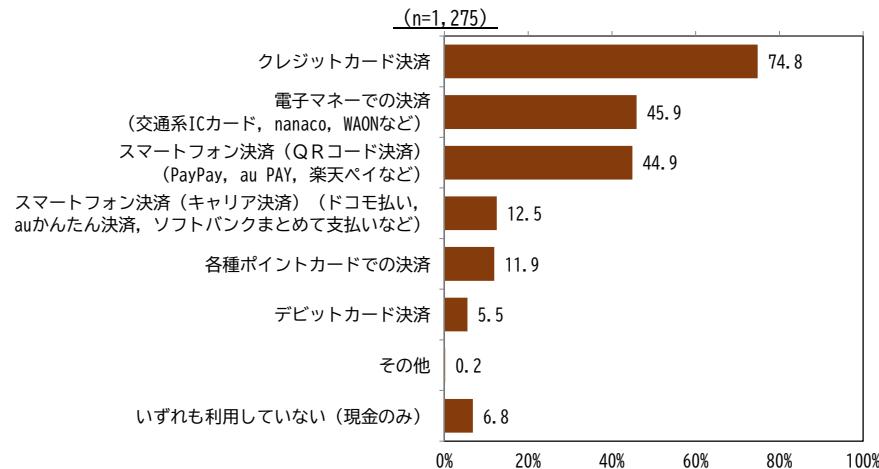


自宅周辺の一般商店を利用しない理由

- ✓ 自宅周辺の一般商店を利用しない理由は, 「自宅近くにない」(45.5%)が最も高く, 次いで「なじみの店舗がない」(40.0%), 「1カ所で買い物が済まない」(23.0%), 「欲しい商品・サービスが十分でない」(22.2%)となっています。

普段よく利用する決済方法

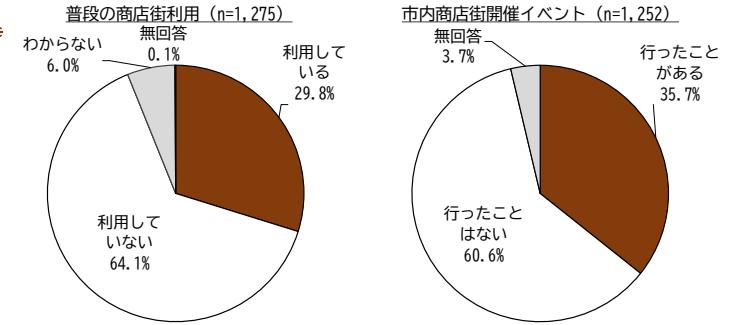
- ✓ 普段よく利用する決済方法は, 「クレジットカード決済」(74.8%)が最も高く, 次いで, 「電子マネーでの決済」(45.9%), 「スマートフォン決済(QRコード決済)」(44.9%)となっています。
- ✓ 「いずれも利用していない(現金のみ)」は, 6.8%にとどまっています。



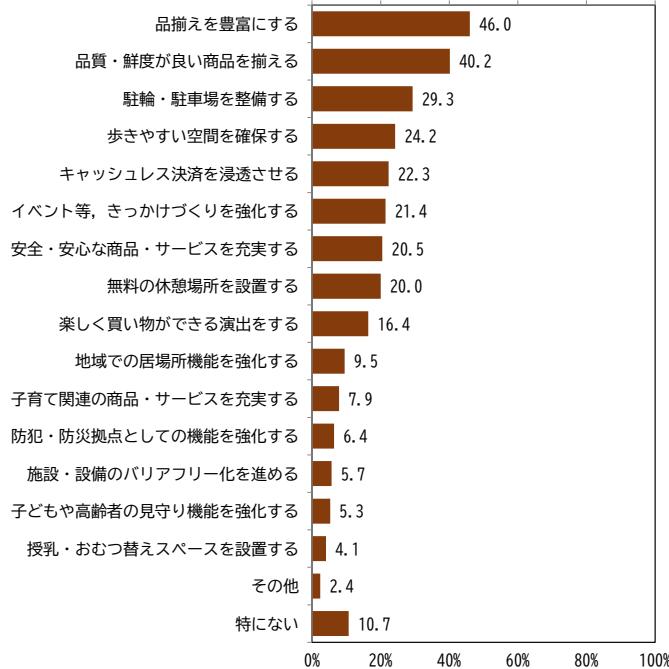
商店街の利用状況等

商店街との関わり, 求める機能

- ✓ 普段の買い物で商店街を「利用している」は29.8%, 市内商店街で開催されているイベントに「行ったことがある」が35.7%です。
- ✓ 調布市内の商店街がどうなればより利用するかについては, 「品揃えを豊富にする」(46.0%)が最も高く, 次いで「品質・鮮度が良い商品を揃える」(40.2%)となっています。



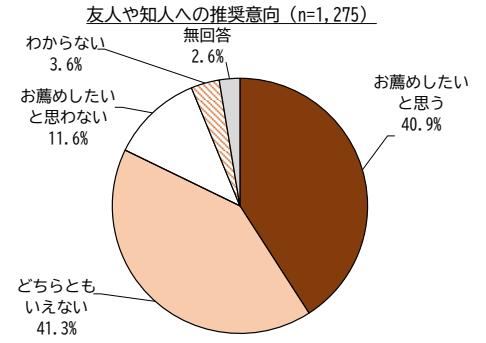
市内の商店街がどうなれば利用したいか (n=1,275)



地域資源

観光を目的に訪れるまちとしての推奨意向

- ✓ 観光を目的に訪れるまちとして, 調布市をお薦めしたいかどうかについて, 「お薦めしたいと思う」が40.9%, 「どちらともいえない」が41.3%, 「お薦めしたいと思わない」が11.6%となっています。



調布市の施策

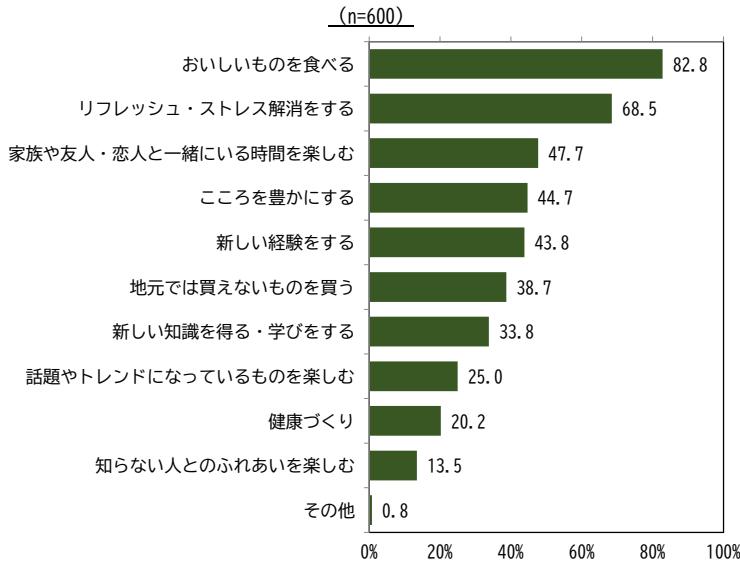
(n=1,275)



今後, 調布市に期待する産業振興施策

- ✓ 今後, 調布市に期待する産業振興施策として, 「まちを歩いて楽しめる環境づくりを推進する」(52.0%)が最も高く, 次いで「子どもや高齢者にやさしい産業・商業の創出・育成を推進する」(42.7%), 「商業・商店街活性化支援を推進する」(36.6%), 「日々の暮らしを支える消費喚起策を充実させる」(36.5%)となっています。

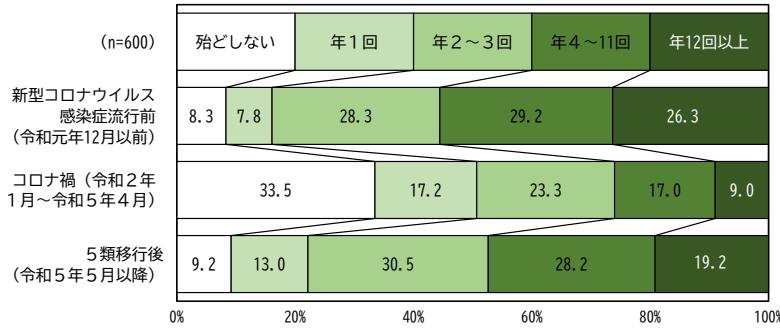
観光全般



遊びや観光をはじめとする外出に求めるもの

✓遊びや観光をはじめとする外出に求めるものとしては、「おいしいものを食べる」(82.8%)が最も高く、次いで「リフレッシュ・ストレス解消をする」(68.5%)、「家族や友人・恋人と一緒にいる時間を楽しむ」(47.7%)、「ここを豊かにする」(44.7%)、「新しい体験をする」(43.8%)となっています。

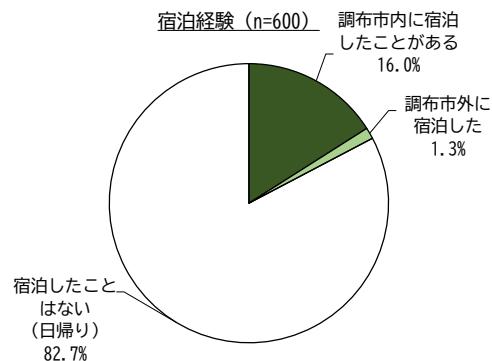
遊びや観光に出掛ける頻度の変化



✓遊びや観光に出掛ける頻度は、コロナ禍で一旦減少しましたが(「殆どしない」が約1割から3割超へ増加)、5類移行後(令和5年5月以降)には回復傾向にあり、新型コロナウイルス感染症流行前(令和元年12月以前)の水準に戻りつつあります。

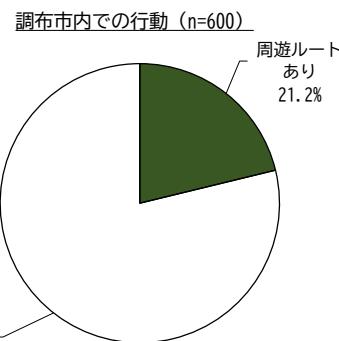
調布市内での宿泊経験

✓調布市への来訪に際しての宿泊経験は、「宿泊したことはない(日帰り)」が82.7%、「調布市内に宿泊したことがある」が16.0%となっています。



調布市内での周遊ルートの有無, 消費金額

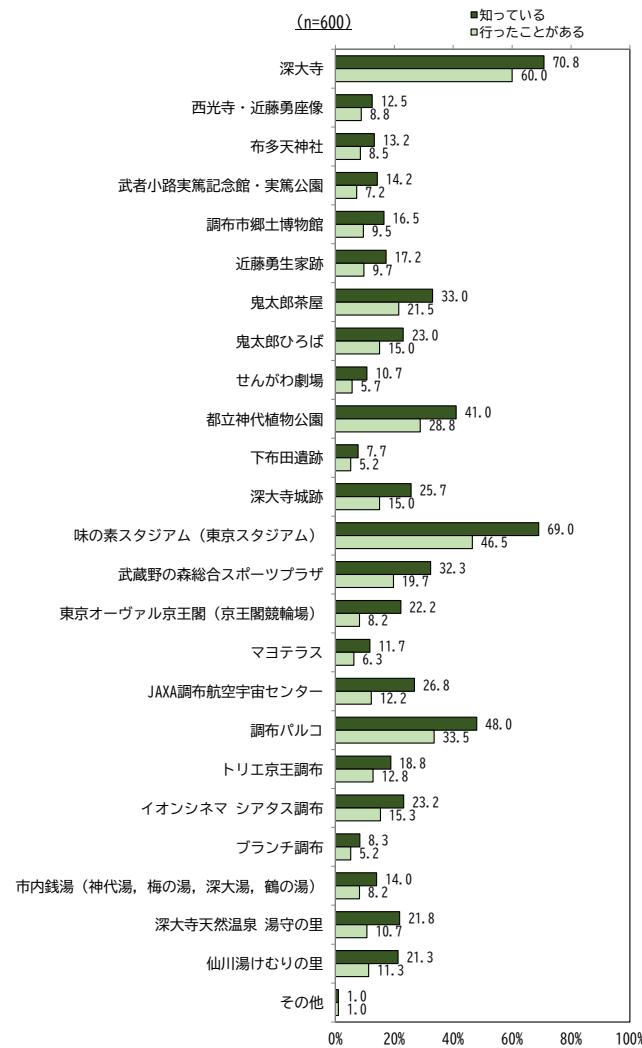
✓調布市内での周遊ルートの有無は、「特にない」が78.8%、「周遊ルートあり」は21.2%です。
✓消費金額は、日帰り7,554円、市内宿泊者41,857円。



	交通費	宿泊費	飲食費	買い物・土産物代	施設やレジャーの入場料・利用料	合計
市内宿泊	4,614	16,906	8,188	7,213	4,936	41,857
日帰り	1,451	0	2,912	1,771	1,419	7,554

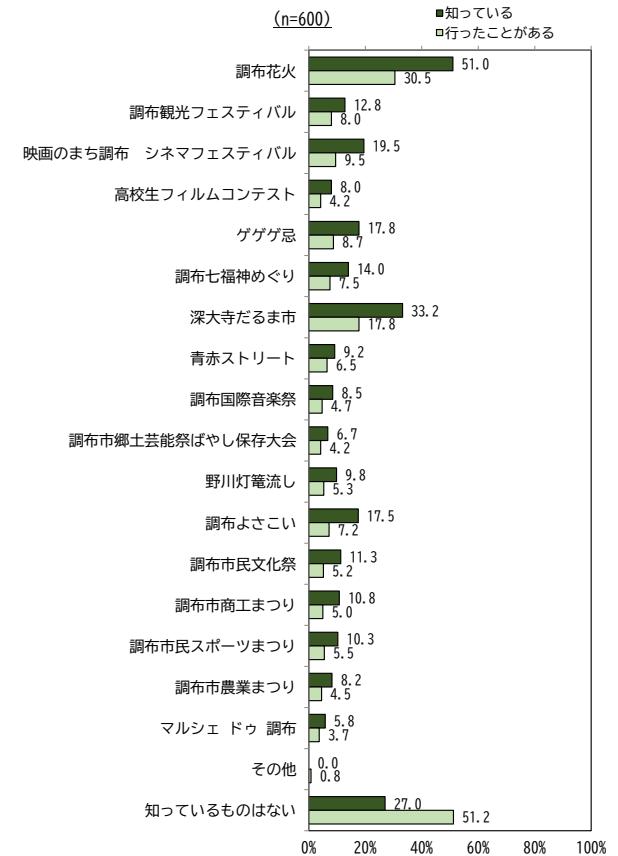
(単位: 円)

調布市との関り方



観光スポット・イベントの認知, 来訪・参加経験

✓【スポット】深大寺, 味の素スタジアム(東京スタジアム), 調布パルコ, 都立神代植物公園, 鬼太郎茶屋等が上位。
✓【イベント】調布花火, 深大寺だるま市, 映画のまち調布 シネマフェスティバル等が上位。



調布市に必要なもの

✓今後、より多くの人に調布市を訪れてもらうために必要なものは、「インターネット(ホームページなど)を活用した情報発信」(57.2%)が最も高く、次いで「グルメや飲食店の充実」(40.7%)、「SNS(X(旧Twitter)・YouTubeなど)を活用した情報発信」(40.3%)、「観光スポットの充実」(37.2%)となっています。

